

UVカットフィルムによる裂果軽減効果

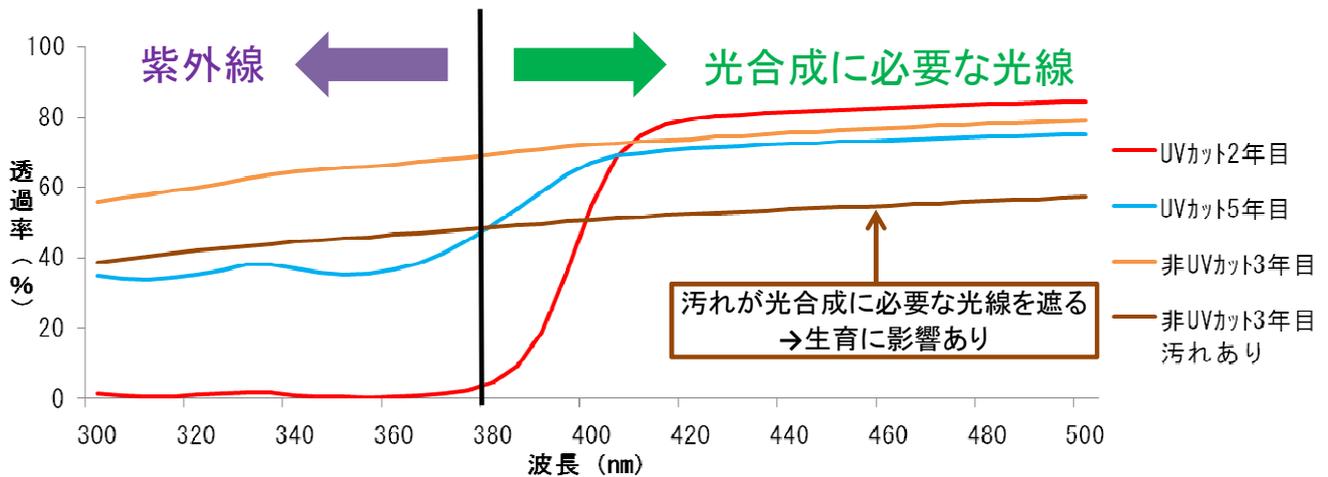
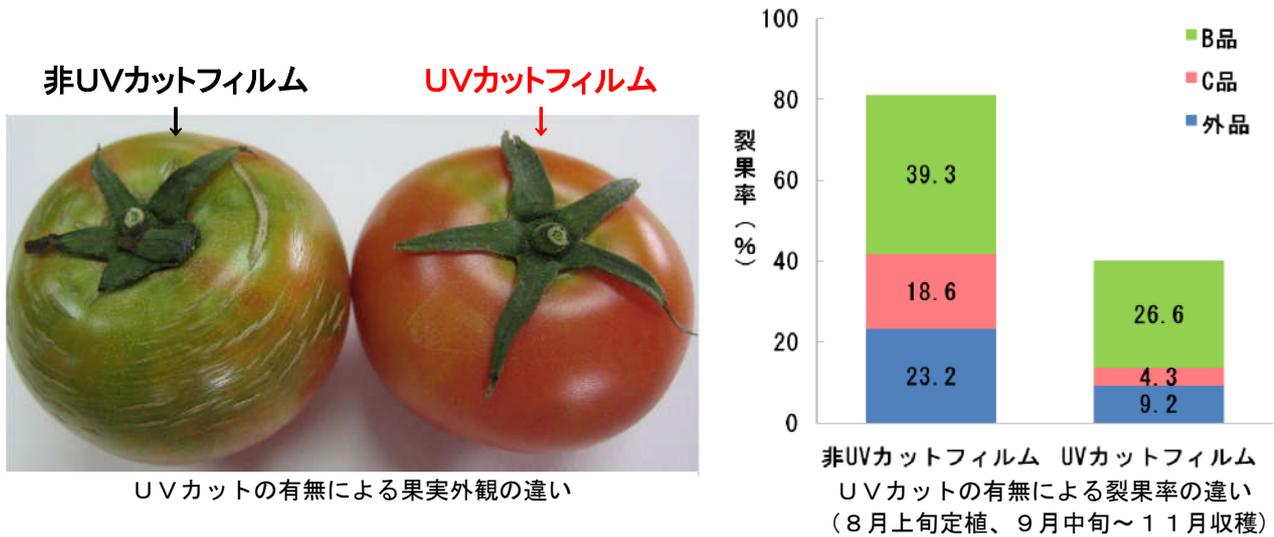
農業研究部

1. 研究の背景

夏秋トマトでは、裂果の発生による品質低下や減収が問題になっているが、その原因の一つに、強日射による果皮の硬化がある。そこで、ハウスビニルにUVカットフィルムを用いることによる裂果軽減効果とUVカットフィルムの耐用年数について明らかにした。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ・ UVカットフィルムを使用することで、果実の細かいひび割れや、へた周辺部のコルク層が少なくなり、裂果が軽減する。
- ・ UVカット効果は5年程度である。また、フィルムの汚れは紫外線だけではなく、光合成に必要な光線も遮るので注意する。
- ・ UVカットフィルムは、マルハナバチの飛行に多少の影響があるので、マルハナバチは晴天日に導入することを厳守し、十分に学習飛行をさせる。



3. 期待される効果

- ・ 裂果軽減による品質と商品収量の向上
- ・ 廃棄の減少による農家所得の向上

4. 担当機関連絡先

農業研究部 トマト・ピーマンチーム
 TEL: 0974-28-2081
 住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8